

宇治山田駅前賑わい創出事業 ～イルミネーション冬のフェスティバル～

宇治山田駅前賑わい創出事業では地域の方と直接交流ができ、活動場所も宇治山田駅前と参加しやすいです。また、参加学生も1年生から3年生まで多くの方が参加しています。本活動は今年で2年目とまだ始まったばかりですので、自由に挑戦したいことが出来る活動ですので気軽に参加ください。

TEAM DATA

メンバー数：31名
活動場所：伊勢市
実施主体：シンフォニアテクノロジー
響ホール伊勢（伊勢市観光文化会館）
担当教員：筒井 琢磨（現代日本社会学部）
活動年度：R02, R03



月別活動

- (9月) 参加者募集、シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢さんへの連絡
- (10月) プロジェクションマッピング用の素材写真撮影、プロジェクションマッピング作成開始、明倫地区まちづくり協議会さんとの交渉
- (11月) 各班作成、各班別での活動開始、学内打ち合わせ、各協力者様との交渉
- (12月) 本番に向けたタイムスケジュールの打ち合わせ、実施場の飾りつけ作業(3日間)、イルミネーション冬のフェスティバル開催、広報での取材、伊勢志摩共生学の授業用資料作成・提出



(2月) 反省会

1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

1年間の活動を通して成果としては物販の完売、プロジェクションマッピング、マジックショーの満席、コロナ感染者を出さずに成功させる等が上げられます。これらの成果を成し遂げることができたのは、参加学生の皆さん、担当の先生、シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢様、地域社会研究会、奇術部、藤屋窓月堂様、紅谷様、明倫地区まちづくり協議会様、未来の大人応援プロジェクト様と協力の元にあると考えています。活動初めは参加者もまだ少なく昨年の継続者数名から始まり、またコロナ禍という状況で活動や勧誘といったことも難しい中であることから少しずつ行っていました。そして、徐々に参加者も集まり、各班に分かれた活動をするまでに至りました。班としてはプロジェクションマッピング、物販、デコレーション、マジックショーと別れ進めていきました。各活動では買い出しや、作品作成、練習、交渉などできる限りネット上で活動連絡をするなど直接会うことが難しい中でも協力し合い行っていくことが出来ました。こうして、この宇治山田駅前賑わい創出事業(イルミネーション冬のフェスティバル)を無事成功させることが出来ました。今後の課題としては、活動の継続、より一層のコロナ感染対策が上げられます。この課題を解決していくため、現在活動の反省会、伊勢志摩共生学での活動発表動画による来年に向けた勧誘活動を行っています。先輩から引き継いだこの活動を来年以降も続いていくことを願っています。

活動を通して学んだこと

この活動を通し学んだことは、参加者、協力者様との報告、連絡の重要性。間違った状況や、誤解を招く言葉には気をつけることでミスを少なくするという事です。特にコロナ禍でネット上での連絡が基本で直接伝えることが難しいなかすすめる大変さがありました。また、こういった連絡や交渉によってコミュニケーション能力を伸ばすことが出来たと考えます。

実施主体からのコメント

シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 ご担当者様

「学生さんが頑張っているのが伝わりました」「ロビーでの学生の皆さんの活動、頑張っている姿がとても良かった。お疲れさま。」アンケートにあった皆さんへのお褒めの言葉です。

人が何かを伝えようとする姿、また喜んでもらうという意志は通じると改めて勉強しました。計画から実行まで熱心に携わっていただき本当にありがとうございました。いくつもの失敗もこれからの糧として活かしてください。

そして地域や企業、様々なステークホルダーに目を向けて幅広い視野で活躍できる社会人になるよう期待しています。



担当教員より

教育開発センター／現代日本社会学部 筒井 琢磨

このCLL活動は2年目ですが、昨年度のメンバーはほとんど3年生(当時。現4年生)で、今年度メンバーで昨年度参加していたのは現3年生3名だけでした。経験者が少ない中、昨年度メンバーからしっかりと引継ぎを受け、今年度は1年生から3年生まで3学年が揃う体制で臨んでくれました。昨年度からのイベント内容を踏襲しただけでなく、クイズコーナーなどの新しいコーナーも開設してくれました。また、学生からの発案で、明倫地区まちづくり協議会様、藤屋窓月堂様、紅谷様とコラボレーションを実現してくれました。オンライン反省会でも、来年度以降の改善につながるような振り返りをしっかりとしてもらいました。

実施主体者の伊勢市観光文化会館スタッフの皆さまのご指導の下、3年生の皆さんがリーダーシップを発揮し、また、全体としてすばらしいチームワークを組めたことが成功の要因に思いますが、学生一人一人ではできないことをチームで実現させたことは、皆さんの自信につながるでしょう。これからの大学生生活にもこの経験をぜひ活かしてください。

1年生、2年生の皆さんは次のリーダーとして、後輩たちをうまく導いてあげてください。



成果物 / 制作物